

# 最近の中国の豚肉需給動向



**alic**

Agriculture & Livestock Industries Corporation

独立行政法人農畜産業振興機構  
畜産振興部畜産流通課

(前 調査情報部国際調査グループ)

伊澤 昌栄 (izawa@alic.go.jp)

# 内容

- 1 飼養頭数と生産量
- 2 飼養農家数の減少と大規模化の進行
- 3 輸入動向
- 4 国産豚肉の流通経路
- 5 消費動向
- 6 今後の見通し



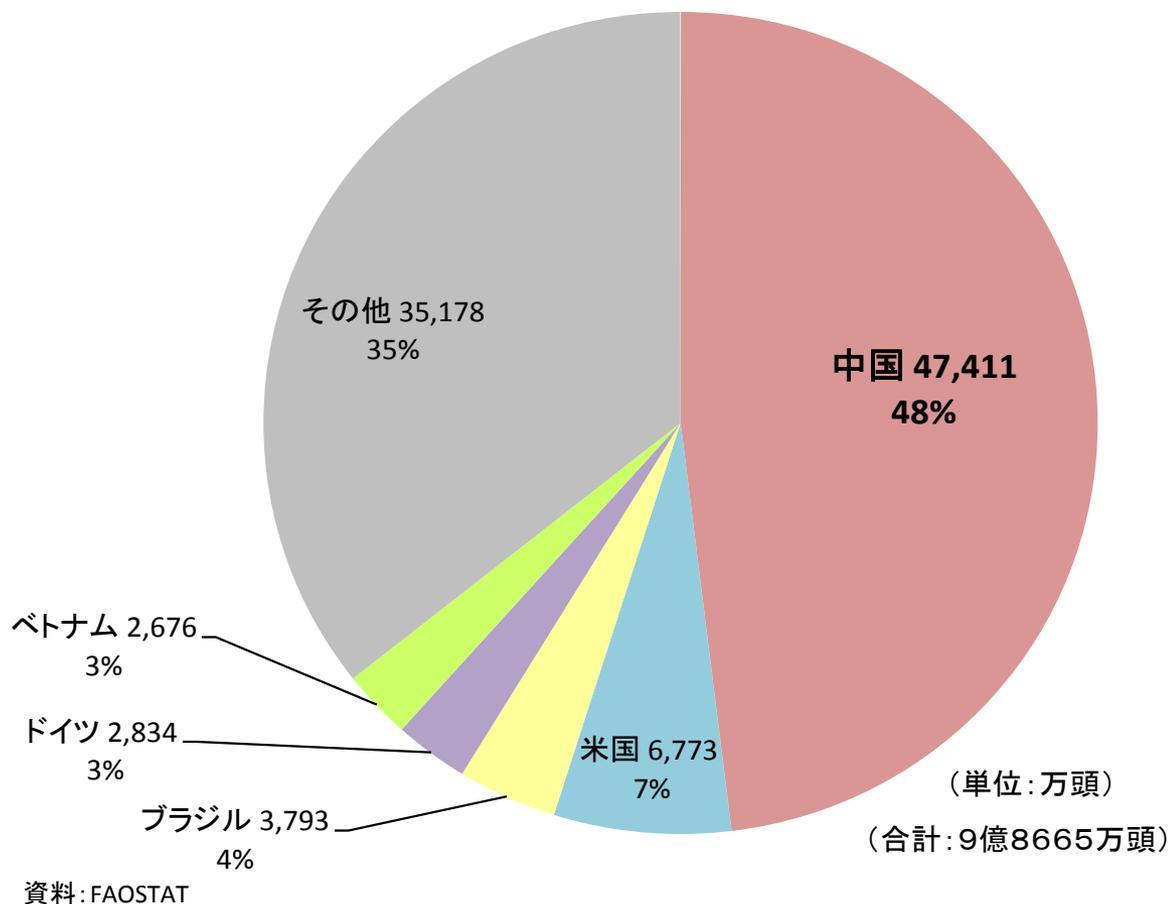
※1元=16円で換算  
(6月末TTSLレート: 1元=15.76円)

# 1 飼養頭数と生産量



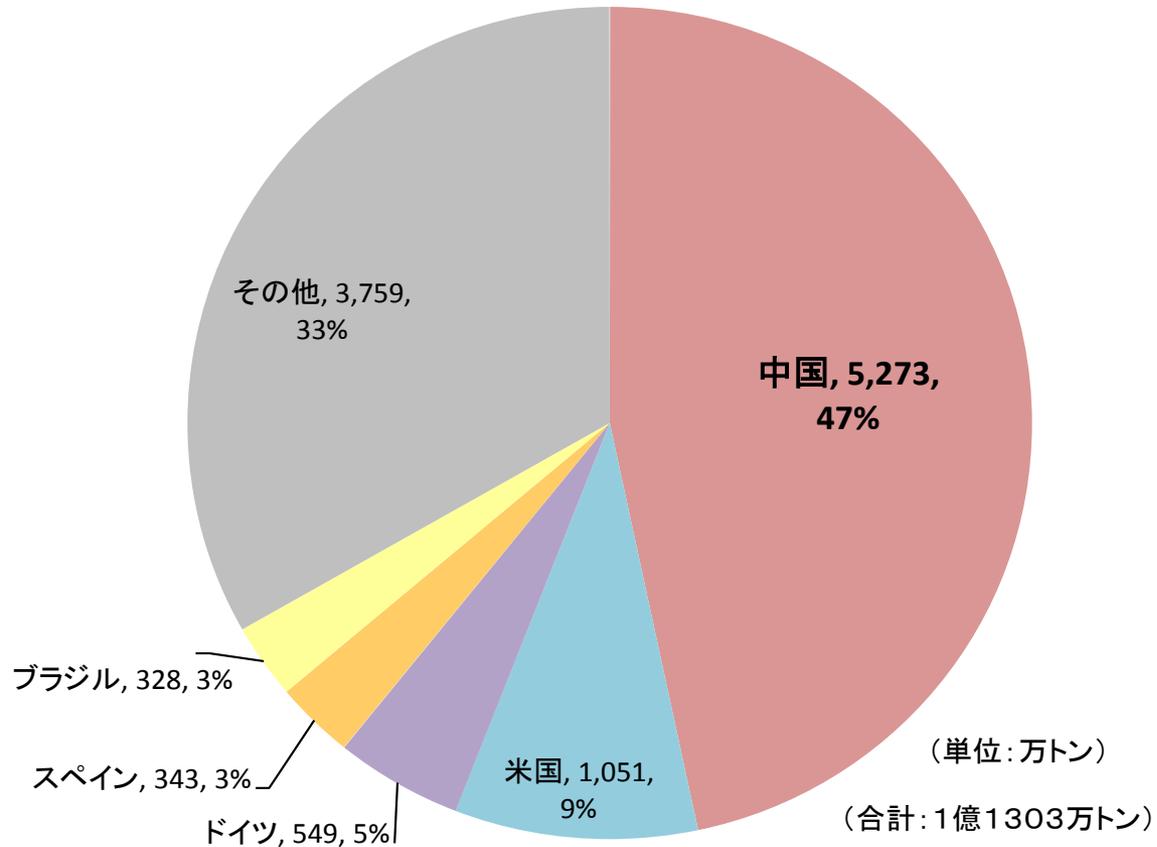
小規模経営(飼養頭数30頭程度)の養豚場

世界の豚飼養頭数割合(2014年)



- 2014年の中国の豚飼養頭数(4億7411万頭)は世界第1位、世界の飼養頭数の48%が中国で飼養。

## 世界の豚肉生産割合(2013年)



資料:FAOSTAT

- 中国は豚肉生産量(5273万トン:2013年)も世界第1位、世界の生産量の47%が中国で生産。

## 豚肉の自給率の推移

(単位:千トン)

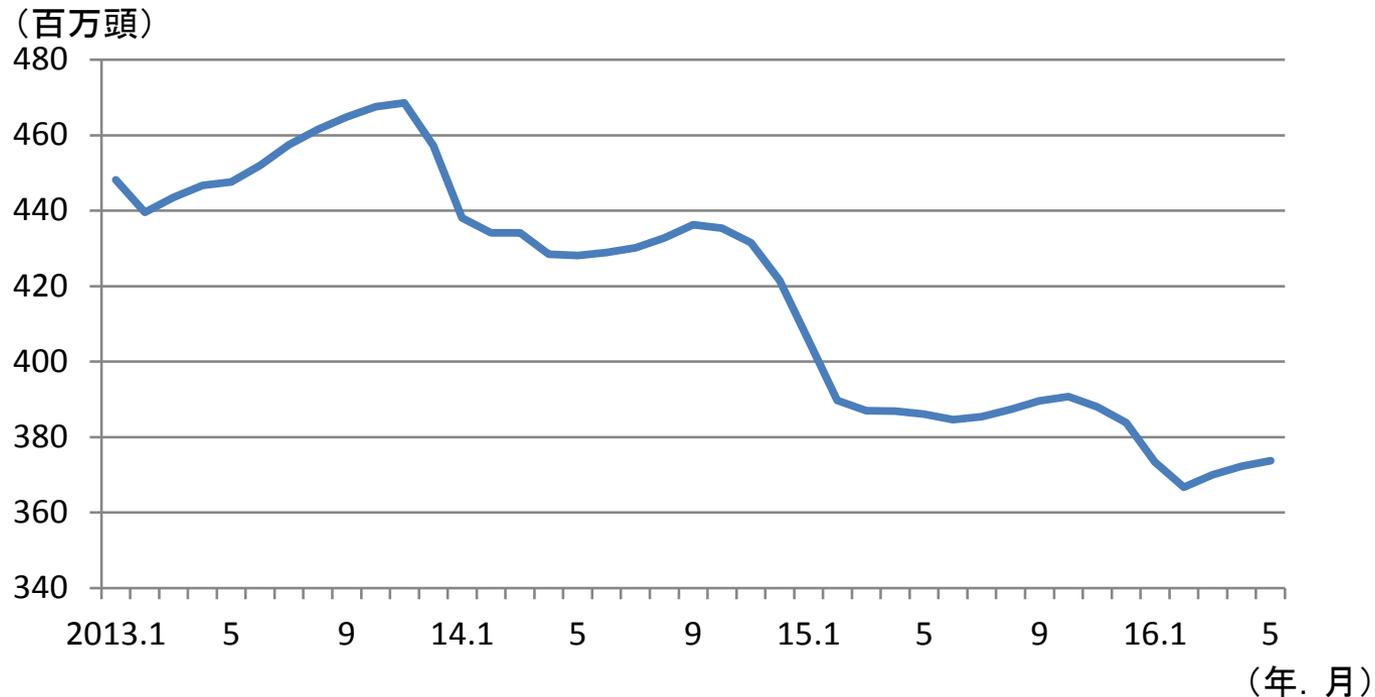
	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
生産量	39,328	40,766	42,525	42,878	44,819	46,934	48,600	48,407	51,300	52,733
輸入量	107	48	36	130	566	205	294	633	715	815
輸出量	598	555	607	394	252	264	318	276	262	279
国内消費仕向量	38,838	40,259	41,954	42,614	45,133	46,876	48,576	48,764	51,752	53,268
自給率	101.3	101.3	101.4	100.6	99.3	100.1	100.0	99.3	99.1	99.0

資料: FAOSTAT

- ・ 飼養頭数および豚肉生産量世界第1位の中国は、人口も世界第1位(13億7600人)で、生産した豚肉はほとんどが国内向け。
- ・ 中国の豚肉自給率は微減傾向にあり、2013年は99.0%。

# (1) 飼養頭数

## 豚飼養頭数の推移

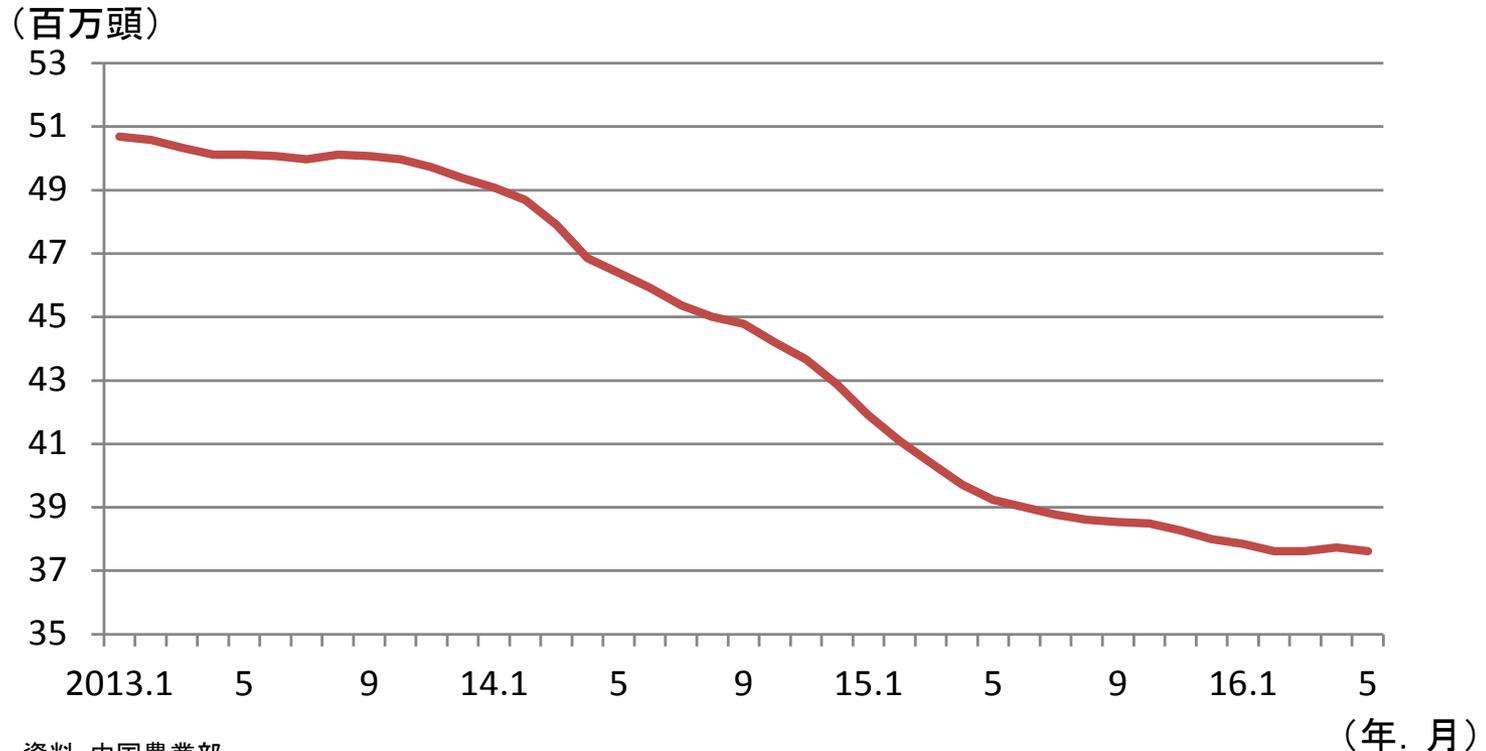


資料: 中国農業部

注: 4000カ所の定点観測による推計値。

- ・ 飼養頭数は、需要期が始まる秋期に増加のピークとなる傾向。
- ・ しかし、2015年以降は、増加が鈍かったことにより飼養頭数は4億頭を割り込み、大きく減少。
- ・ こうした中、資本家などの農外からの参入に加え、政府の支援などにより大規模化が進行。

## 繁殖用母豚頭数の推移



資料: 中国農業部

注: 4000力所の定点観測による推計値。

- ・ 飼養頭数の増減を大きく左右する繁殖用母豚の頭数も、2013年1月以降、減少傾向。
- ・ 2016年2月以降、横ばいで推移。

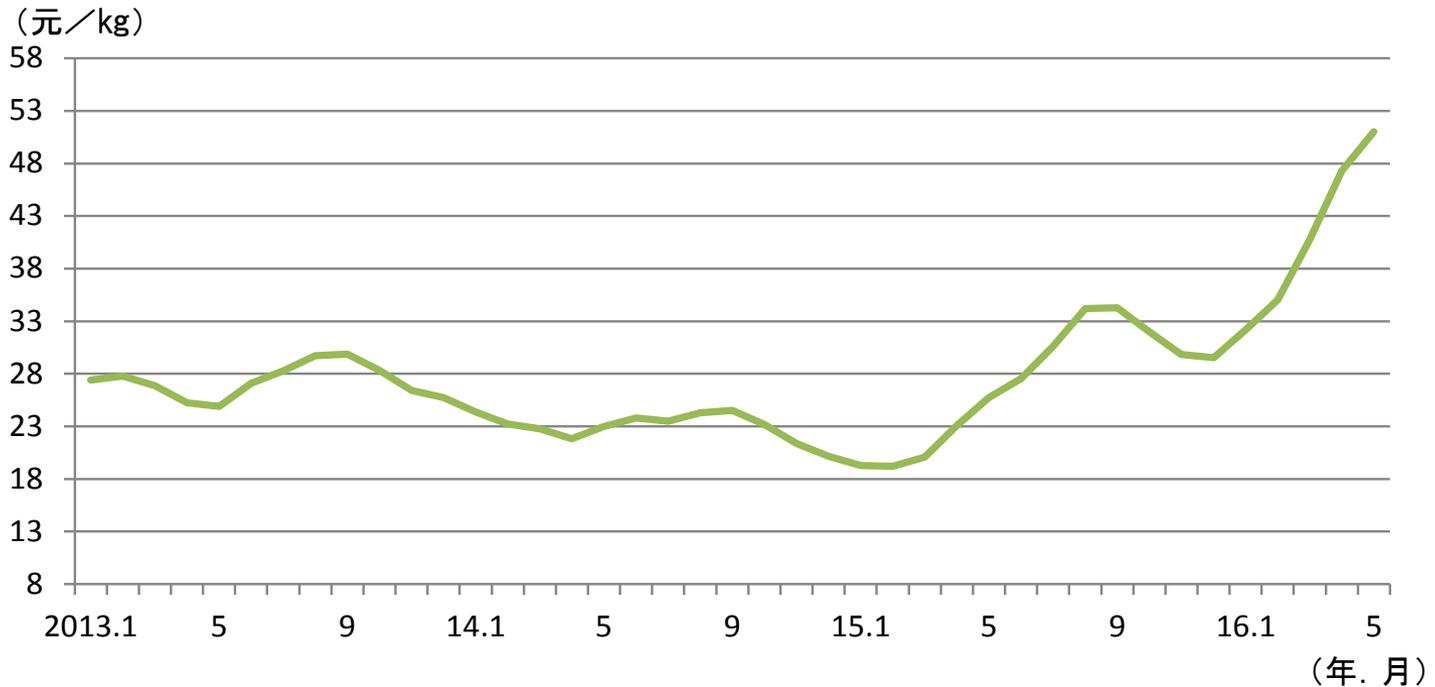
## 豚出荷価格の推移



資料: 中国国家發展改革委員会  
注: 生体出荷価格。

- ・ 出荷価格は、2014年4月、春節後の供給過剰により12元(192円)割れ。
- ・ 2015年以降、飼養頭数が大きく減少したことにより続伸。

## 子豚平均価格の推移

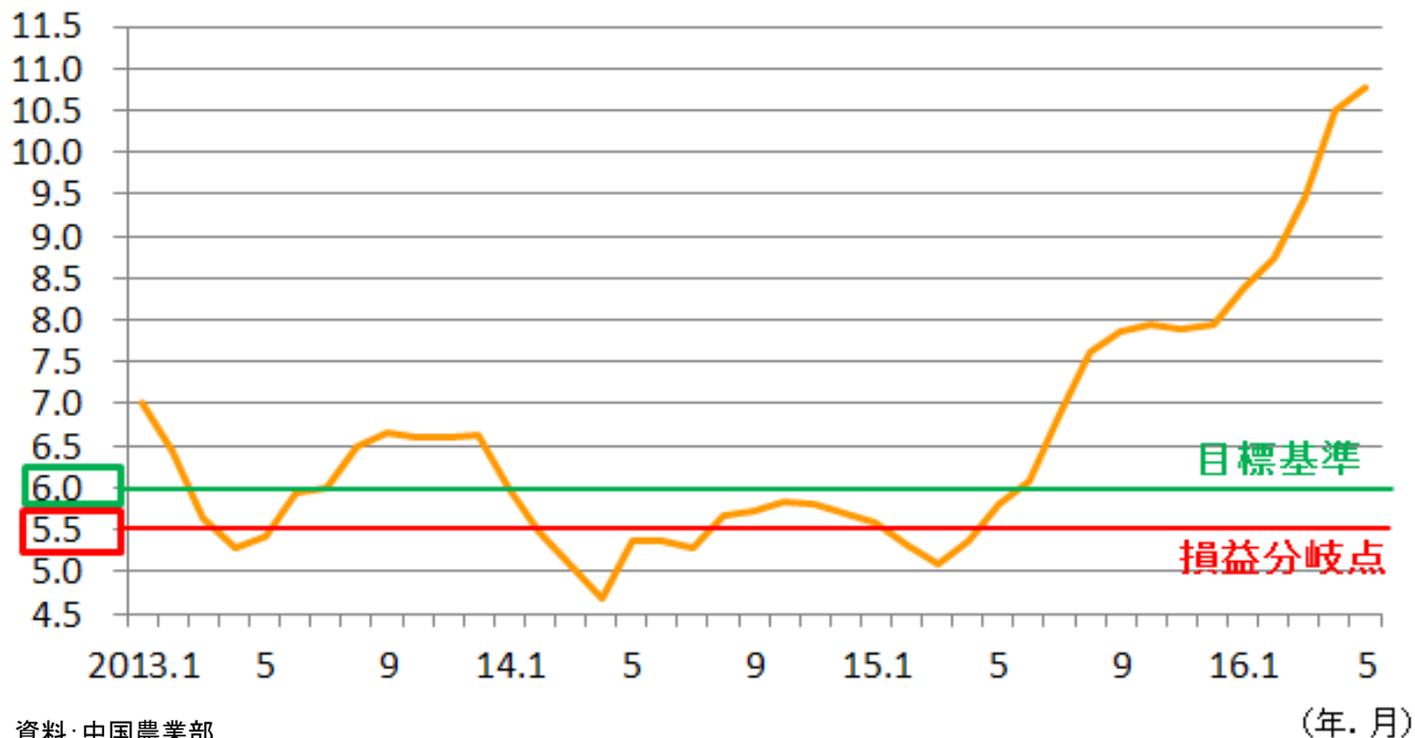


資料: 中国農業部

注: 4000カ所の定点観測による推計値。

- 2015年3月以降は、繁殖用母豚頭数の減少を受けて上昇基調。
- 飼養頭数が回復しない一因にも。

## 豚／穀物比の推移



- ・ 繁殖用母豚の大幅な減少は、豚／穀物比が損益分岐点(5.5)を下回ったため、小規模経営を中心に繁殖用母豚の淘汰や離農が進んだことが要因。
- ・ 頭数減少が一服したのは、繁殖用母豚の導入目安である目標基準(6.0)を超えた2016年1月。

## 冷凍豚肉備蓄基準

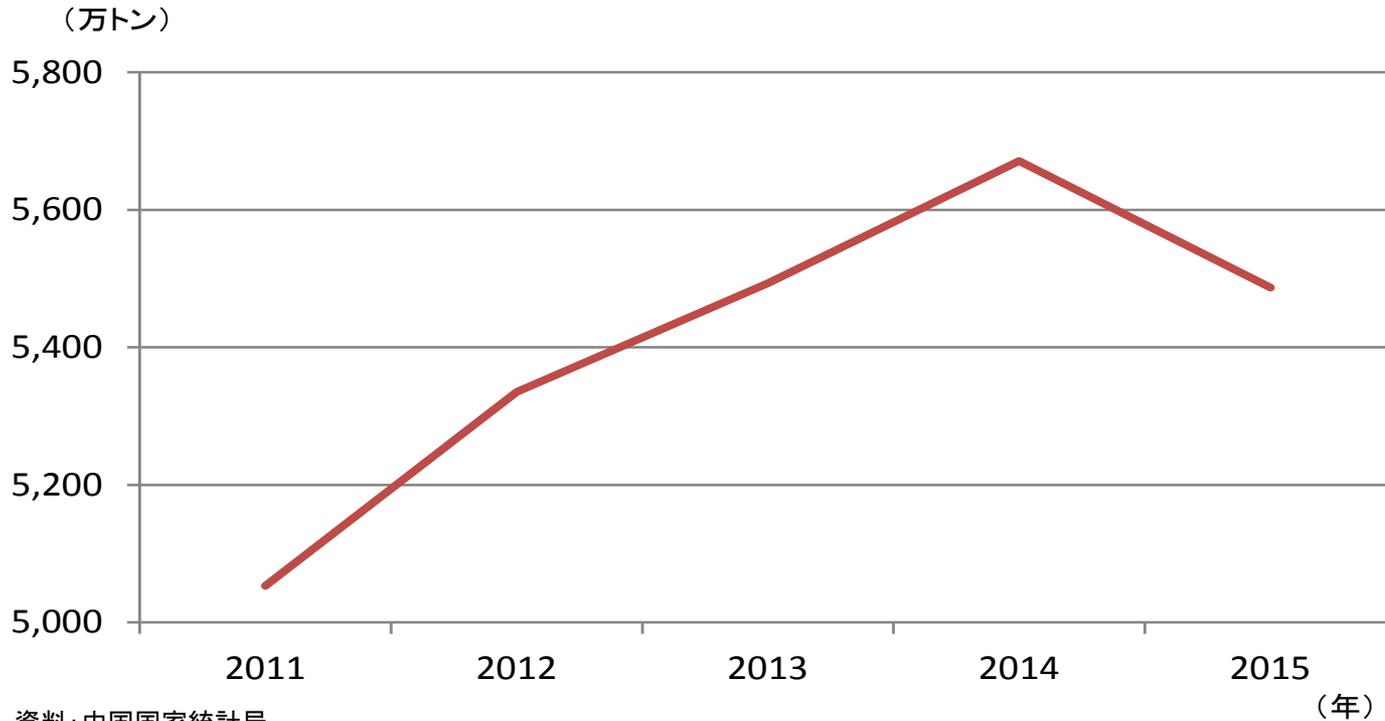
豚肉価格	豚／穀物比	内容
下落	4.5:1未満	価格安定向け備蓄量の増加(市場隔離量の増加、隔離限度量は25万トン)
	4.5:1以上5.1:1未満	価格安定向け備蓄の開始(市場隔離の開始)
	5.1:1以上5.5:1未満	政府による過当値下げ防止策および国民向け緊急消費啓発活動の実施
平時	5.5:1以上8.5:1未満	一般備蓄(非常時向け備蓄、備蓄量は1万トン)
	8.5:1以上9.1:1未満	政府による過当値上げ防止策の実施
	9.1:1以上9.5:1未満	価格安定向け市場放出の開始
	高騰	9.5:1以上

資料: 華商儲備管理中心

- 豚／穀物比は、豚肉備蓄(国家<sup>ちよび</sup>儲備肉)の基準にも活用。
- 国家儲備肉の目的は、非常時の供給と豚肉の価格安定。
- 備蓄は、生体豚(最低備蓄期間3カ月)および冷凍豚肉(同4カ月)。

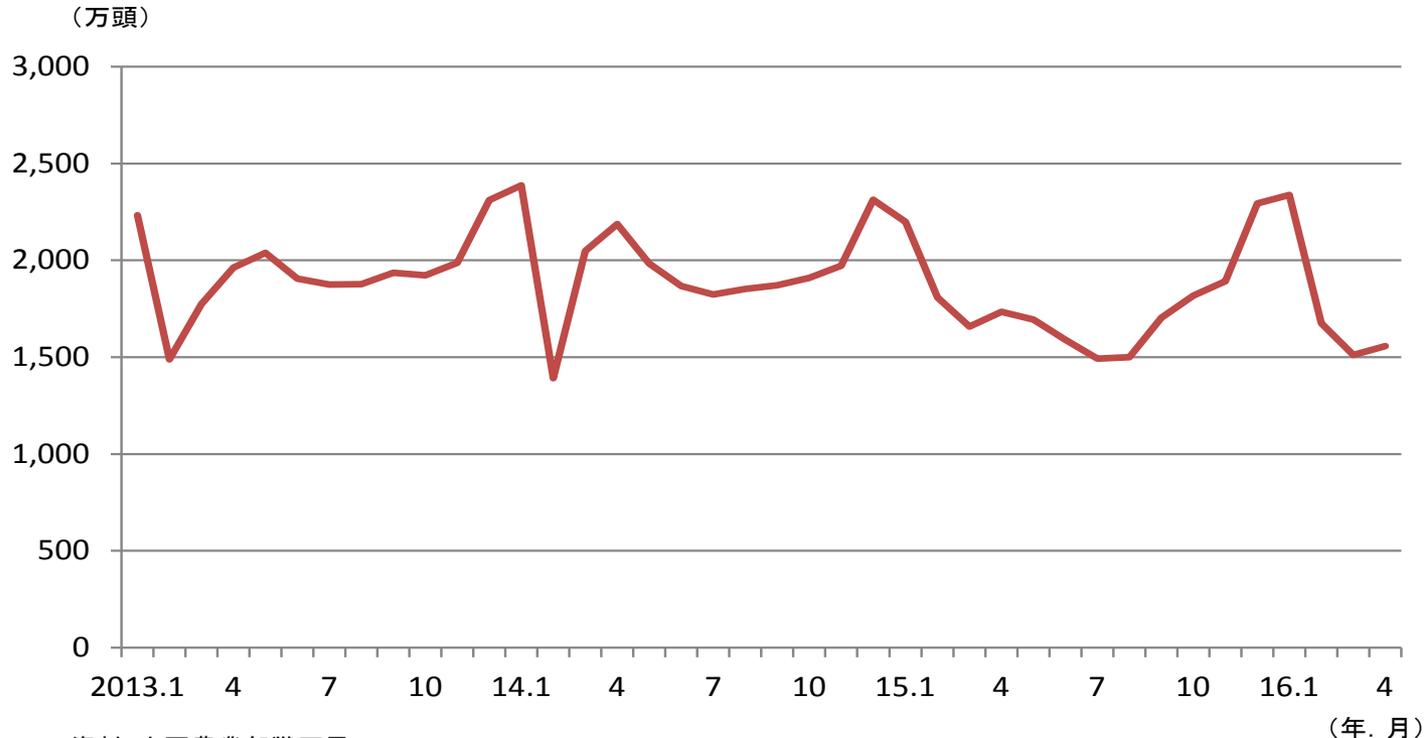
## (2) 生産量

豚肉生産量の推移



- ・ 豚肉生産量は、2014年まで需要の増加に合わせて伸長。
- ・ 2015年は、飼養頭数の減少や経済の減速により2013年並みまで減少。

## 大規模と畜企業における豚と畜頭数の推移

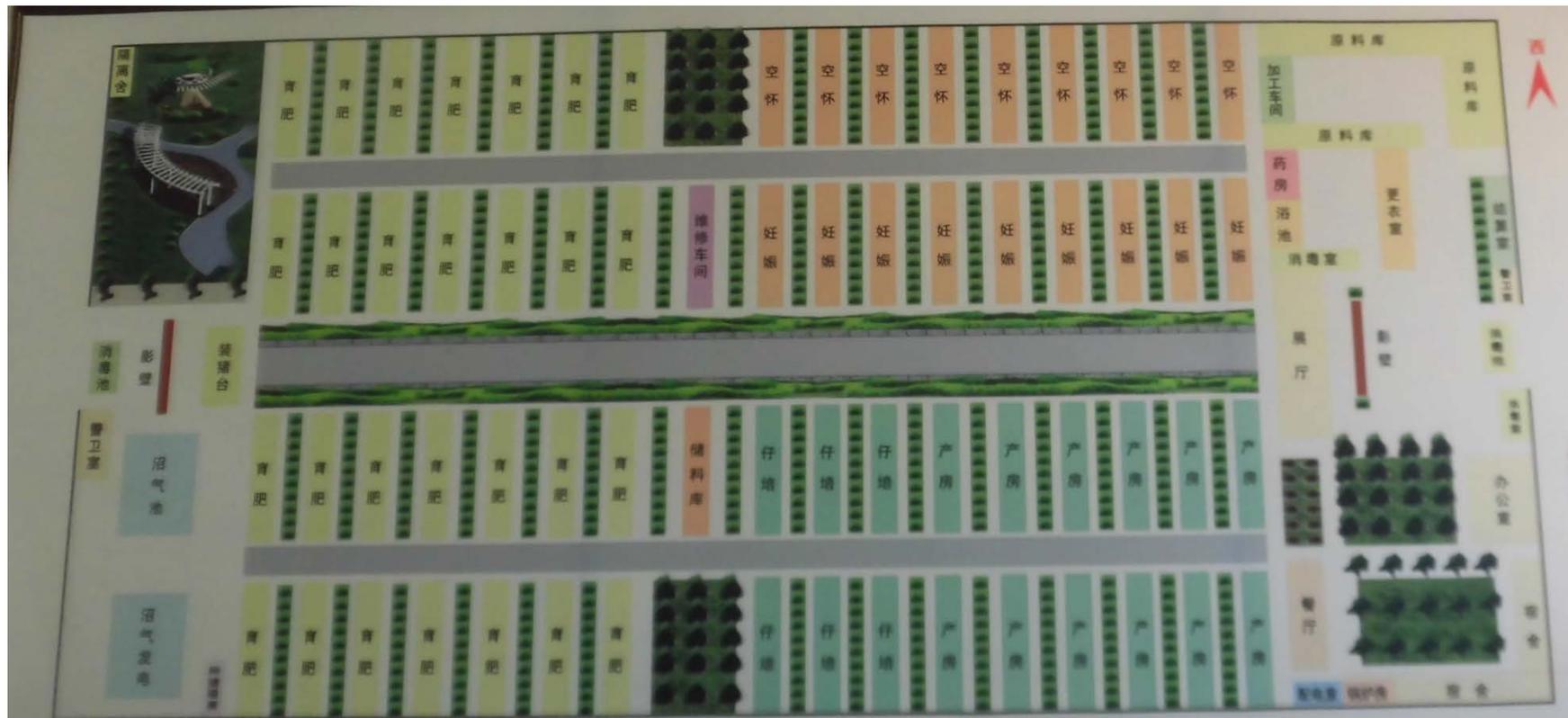


資料: 中国農業部獣医局

注: 中国農業部が所轄する大規模と畜企業のと畜実績。

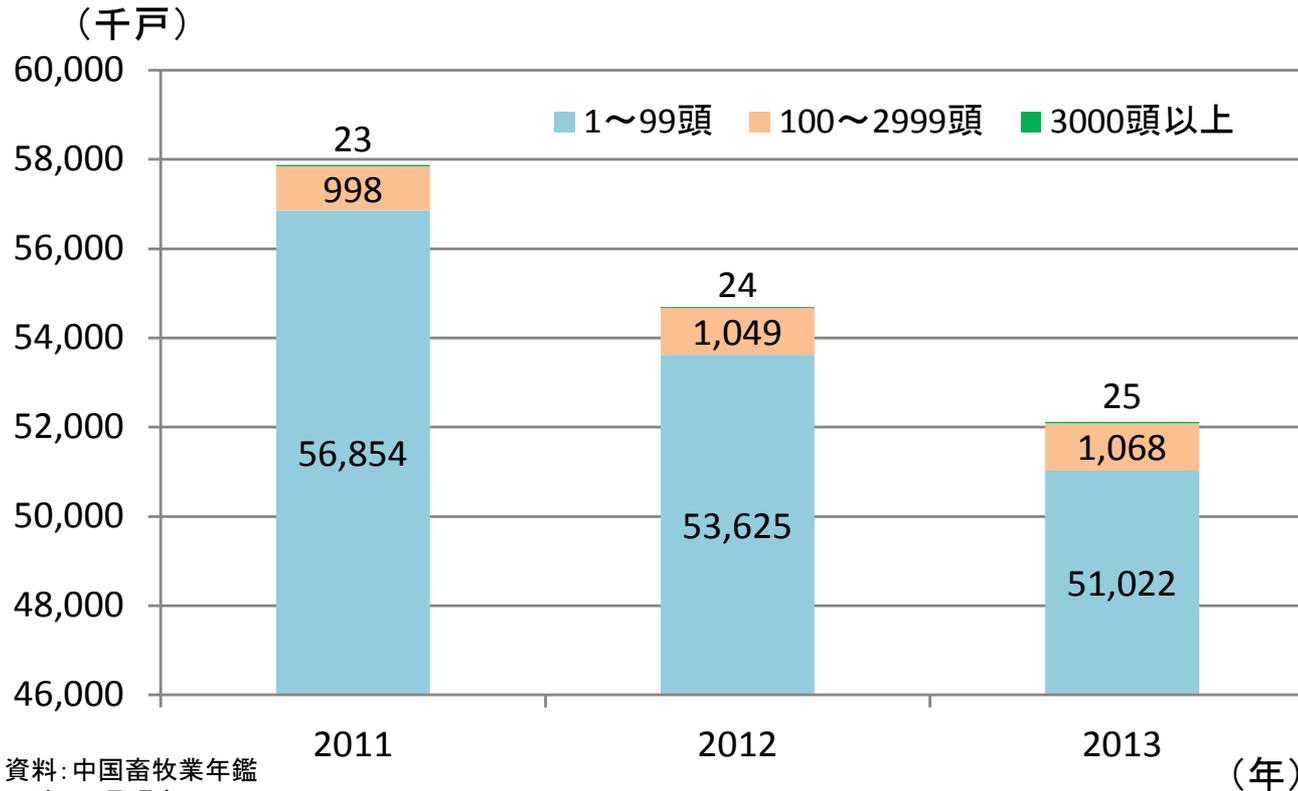
- と畜頭数は需要期の秋期から年明けにかけて増加。
- 2015年以降は、飼養頭数の減少や製造業の東南アジア移転に伴う集団給食需要の減少により、需要期以外のと畜頭数が大きく減少。

## 2 飼養農家数の減少と大規模化の進行



大規模経営の養豚場の見取図

## 豚飼養農家数の推移(規模別)



- ・ 中国の養豚は、1戸当たり99頭以下の小規模経営が主体。
- ・ 小規模経営は、豚出荷価格の下落や豚／穀物比の低下による減収の影響を受けやすいため、継続して減少。
- ・ これに対し、100頭以上の経営規模は微増傾向。

## 規模別の1頭当たり経営収支(2013年)

項目	小規模経営						中規模経営以上						参考: 日本(平均値)	
	飼養頭数30頭未満		費用に占める 比率(%)	飼養頭数30~100頭未満		費用に占める 比率(%)	飼養頭数100~1,000頭未満		費用に占める 比率(%)	飼養頭数1,000頭以上		費用に占める 比率(%)	(円)	費用に占める 比率(%)
	(元)	(円)		(元)	(円)		(元)	(円)		(元)	(円)			
収 益(a)	1746.9	27,950	-	1737.9	27,807	-	1739.8	27,836	-	1684.7	26,956	-	40,706	-
費 用(b)	1853.0	29,648	100.0	1661.1	26,577	100.0	1618.1	25,890	100.0	1571.3	25,141	100.0	34,774	100.0
家族労働費	478.9	7,662	25.8	212.8	3,405	12.8	104.6	1,673	6.5	6.1	98	0.4	3,220	9.3
雇用労働費	0.3	5	0.0	13.1	209	0.8	47.9	766	3.0	96.7	1,547	6.2	895	2.6
子豚導入費	405.8	6,492	21.9	428.2	6,851	25.8	450.6	7,209	27.8	493.5	7,896	31.4	-	0.0
飼料費	913.9	14,623	49.3	947.0	15,151	57.0	946.9	15,150	58.5	895.7	14,332	57.0	23,100	66.4
医薬品費	15.5	247	0.8	17.3	277	1.0	18.4	295	1.1	22.9	367	1.5	2,042	5.9
光熱電力費	6.5	104	0.4	5.0	80	0.3	5.8	93	0.4	7.2	115	0.5	1,600	4.6
その他費用	32.2	515	1.7	37.7	603	2.3	43.9	703	2.7	49.2	787	3.1	3,917	11.3
利 潤(c = a-b)	▲ 106.2	▲ 1,698	-	76.8	1,229	-	121.6	1,946	-	113.4	1,814	-	5,932	-
利益率(c/a)	▲ 6.1%		-	4.4%		-	7.0%		-	6.7%		-	14.6%	
家族労働費を含んだ所得(d)	372.7	5,963	-	289.7	4,635	-	226.2	3,620	-	119.5	1,912	-	9,152	-
所得率(d/a)	21.3%		-	16.7%		-	13.0%		-	7.1%		-	22.5%	

資料：中国国家発展改革委員会価格司「全国農産品成本収益」、農林水産省「畜産物生産費統計（平成26年度）」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：日本の経営収支は一貫経営。

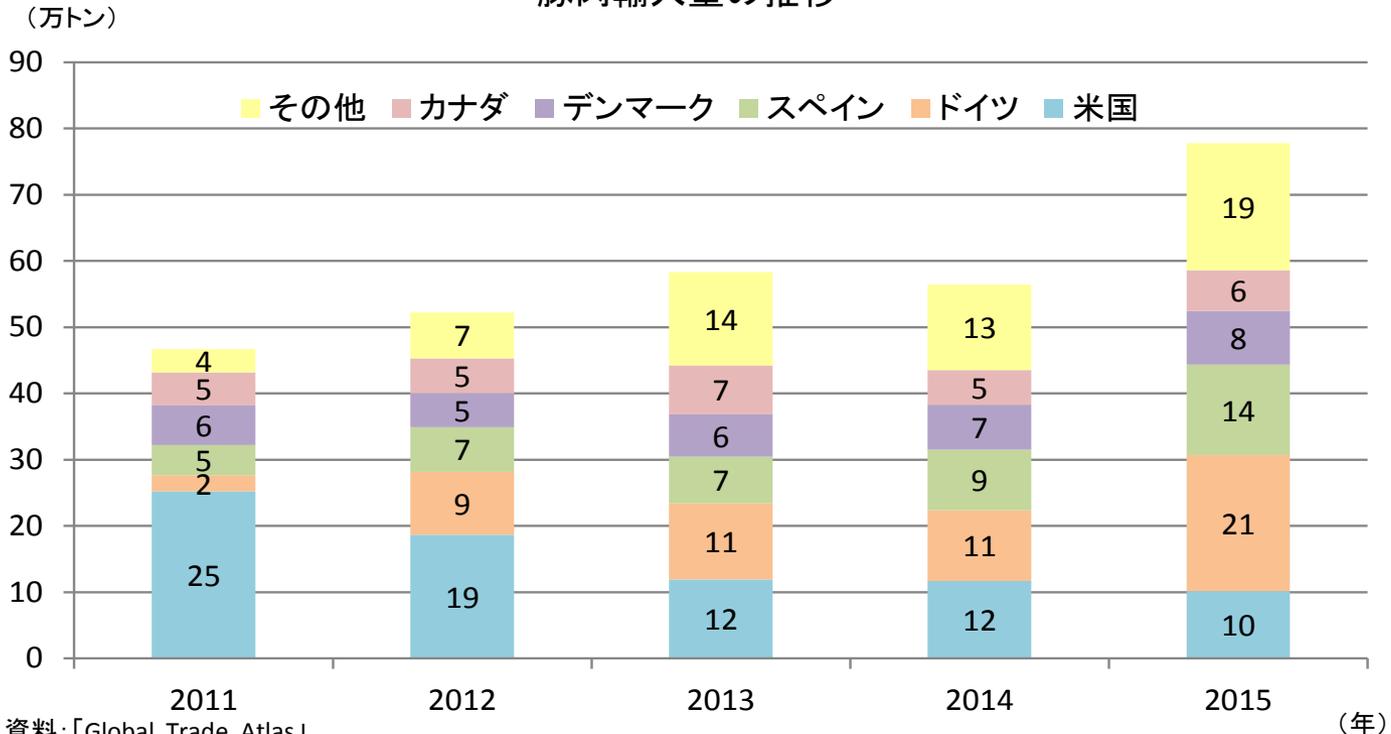
- 飼養規模30頭未満の場合、年間30頭出荷した所得は、山東省の最低賃金より5000元程度(8万円)安いため、小規模経営の中には、離農して出稼ぎに行く者も出現。
- 小規模経営に対する政府の支援がないことと衛生環境政策の強化に加え、沿岸部では、農外の就労機会が増加したことで、離農の継続が見込まれる。

### 3 輸入動向



量販店の輸入豚肉売り場。パック売りは、高級豚肉や輸入豚肉で行われており、重量は500グラム以上が基本。

## 豚肉輸入量の推移

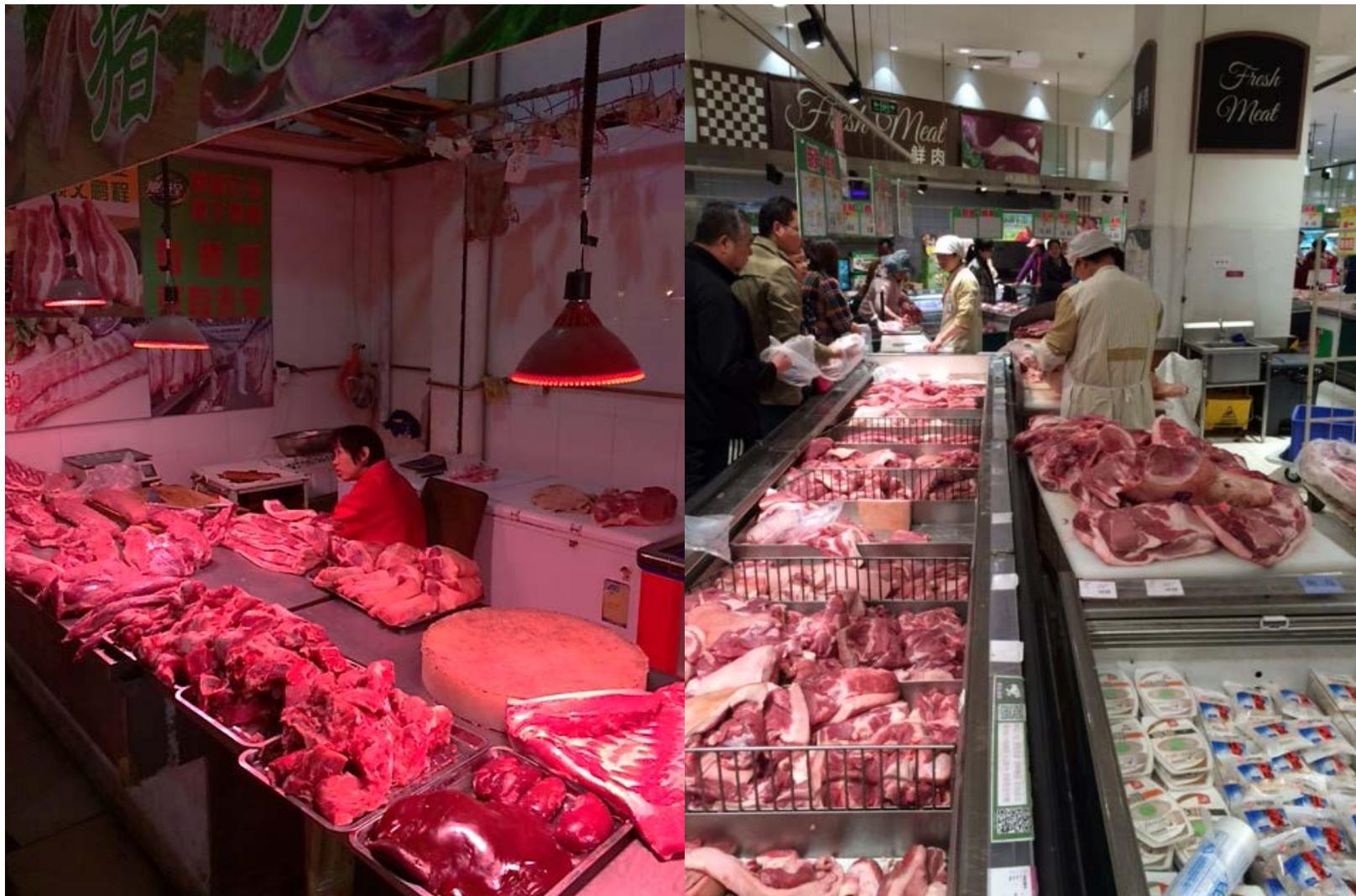


- 豚肉輸入量は、国内の食肉需要の伸びに加え、国産豚肉より安価なことから増加。
- ラクトパミン無残留証明書の提出義務化により米国产が減少した中、ロシアによる禁輸措置で中国向け輸出を増加させた、ドイツなどのEU産が増加。



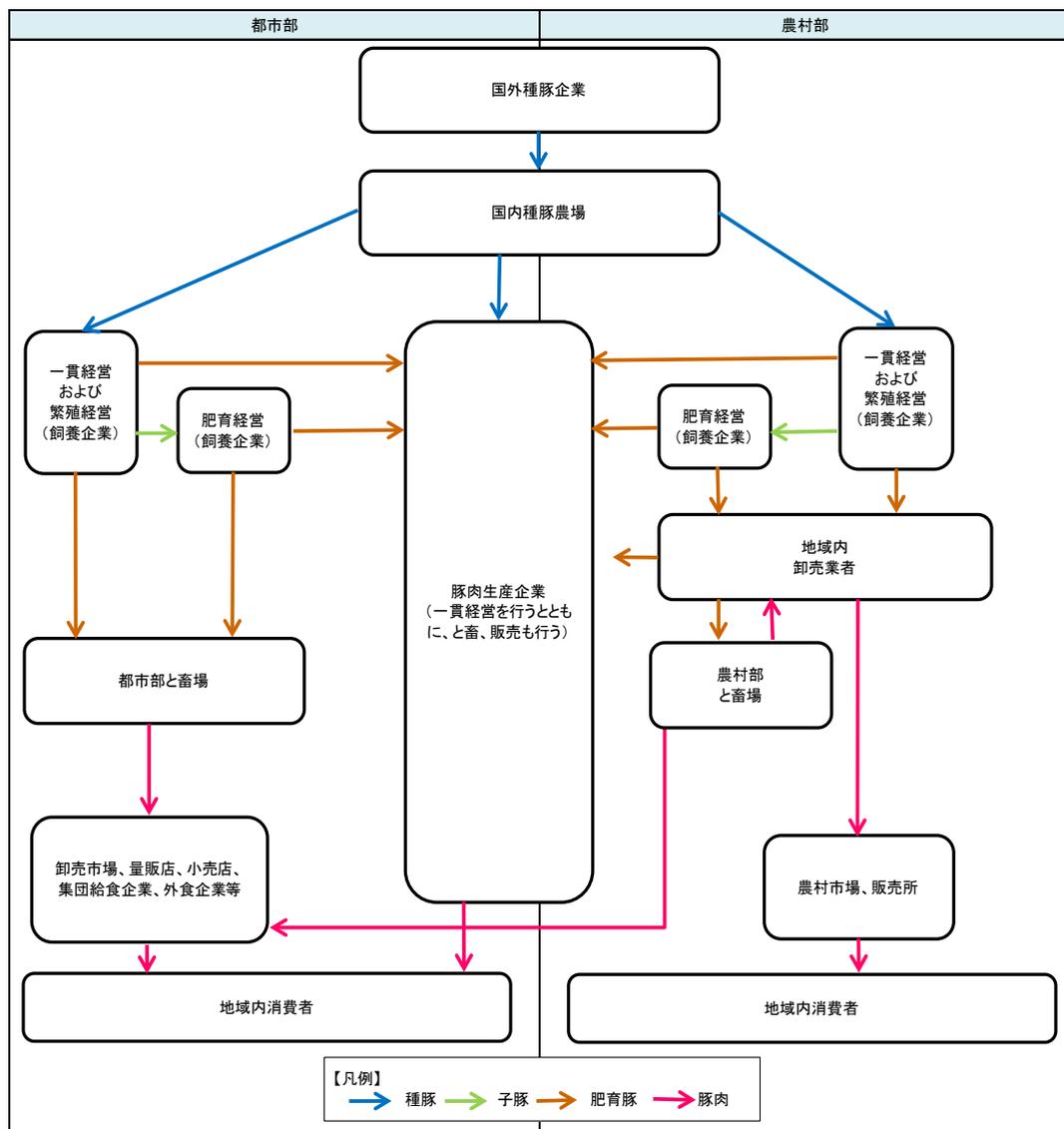
- 現在も、国産豚肉の高値が継続していることから、加工業者を中心に輸入豚肉の原料使用が増加。
- 輸入量が減少した米国産は、スミスフィールド(萬州国際傘下)による中国向け生産の強化と、中国での豚肉加工品生産拠点設置により、今後は増加見込み。

## 4 国産豚肉の流通経路



豚肉販売の様子(左:伝統市場、右:量販店)。両方ともブロックを注文に応じてカット。

## 国産豚肉の主な流通経路



資料：聞き取りを基に機構作成



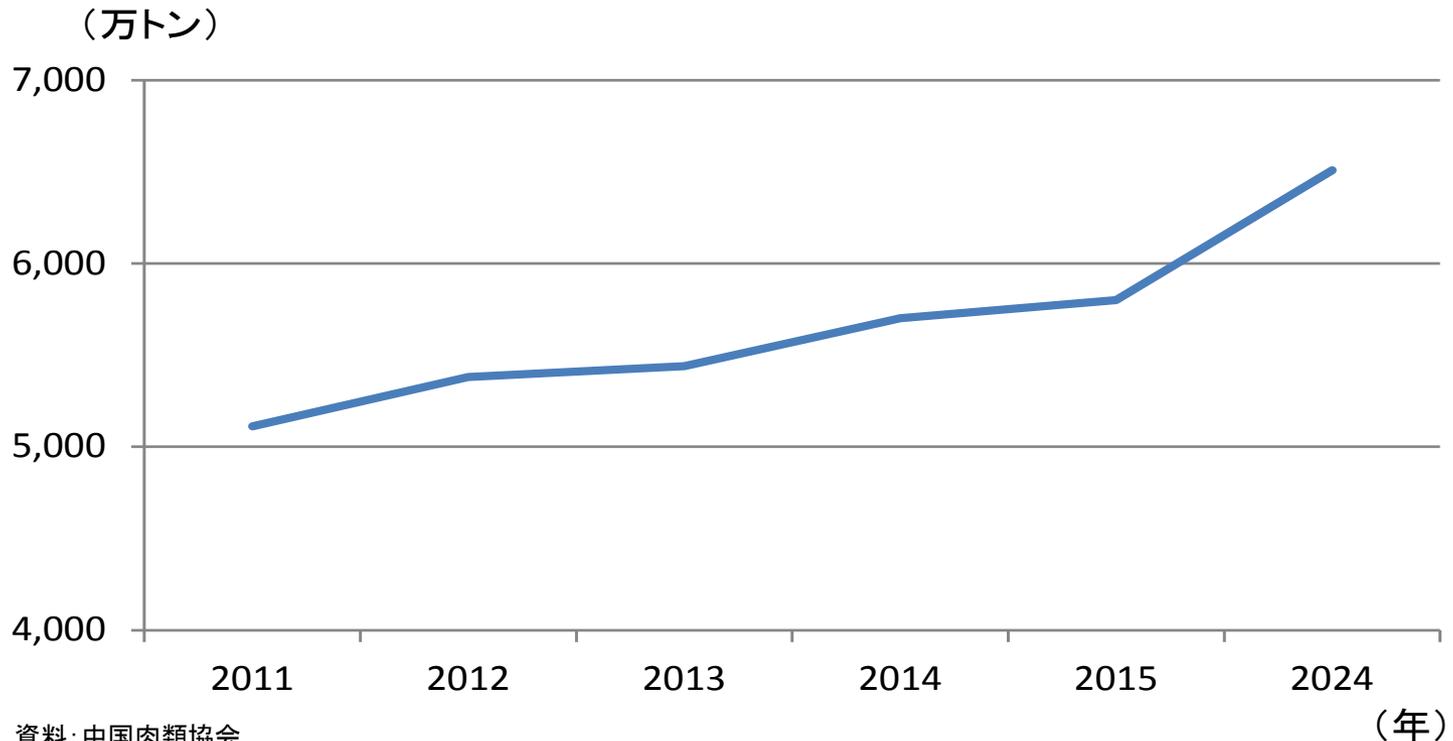
- ・ 国産豚肉の流通は、都市部と農村部で異なる。
- ・ 豚肉生産企業は、自社一貫経営で生産から豚肉販売まで行うほか、肥育農家などからも肥育豚を調達。

## 5 消費動向



ギョーザは安価で多く食されているファストフード的な食べ物。具材として豚肉の使用が多い。

## 豚肉消費量の推移



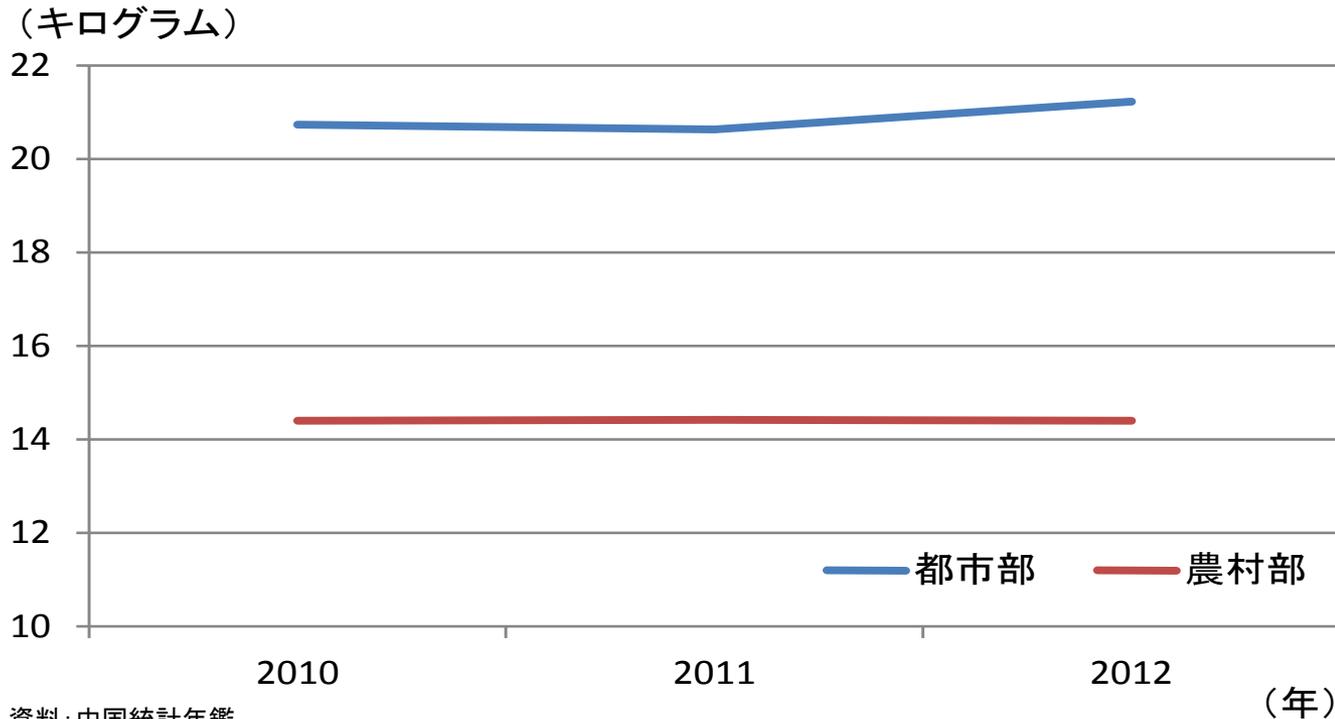
資料: 中国肉類協会

注1: 2015年は推定値、2024年は予測値。

2: 枝肉重量換算。

- ・ 豚肉は中国において最も消費される食肉で、消費量は増加傾向。
- ・ 今後も増加傾向が継続し、2024年は6510万トンに達する見込み。

## 1人当たりの豚肉消費量の推移



- ・ 都市部では、所得の向上により豚肉消費量が増加し、1人当たりの消費量は21.2キログラム(2012年)と農村部より4割多い。
- ・ 消費量の少ない農村部だが、今後は所得の向上により、消費量が増加する可能性も(農村部と都市部の人口比は1:1)。

## 6 今後の見通し



量販店の豚肉売り場。部位ごとに販売しており、部位を丸ごと購入する消費者も多い。

☆ 中国の豚飼養頭数は世界最多であるが、2014年の価格低迷による飼養農家の経営悪化と離農により、繁殖用母豚を含めて減少傾向。

- 中国の農畜産物生産は、価格の変動により変動する傾向。
- 豚出荷価格低落時に小規模経営を中心に飼養中止と繁殖用母豚の淘汰が進行。
- 豚出荷価格上昇後も、小規模経営を中心とした離農と経営体力の低下により、繁殖用母豚の導入が進まず、繁殖用母豚は減少。
- 2015年は、経済の減速により大口需要などは縮小したことで、豚肉生産量は2013年並みまで減少。
- 2016年2月以降、豚／穀物比が目標基準を大きく超えたことで、繁殖用母豚は横ばいで推移。

☆ 飼養農家数は、小規模経営の減少と大規模化の進行により減少傾向

- 農外の就労機会が増加する中、小規模経営は、養豚よりも高い収入の得られる農外就労を志向。
- 一方、食肉加工企業などの大規模直営養豚場の設置や、資本家などの農外からの参入に加え、政府による大規模化支援などにより大規模化が進行。
- 政府は、大規模化支援以外の生産振興策を大々的に打ち出していないため、全体的に養豚は縮小傾向。

☆ 飼養頭数の減少傾向が継続し、豚肉価格の高騰がする中、輸入量は増加

- 国産豚肉より安価な輸入豚肉は、ロシアの代替市場として中国向けを増加させた、ドイツなどのEU産が増加。
- 米国産は、加工用として輸入量回復が見込まれる。

☆ 豚肉消費量は増加傾向

- ・ **豚肉は、中国で最も多く消費される食肉**であり、食の多様化が進行する中でも、今後所得の向上が見込まれる**農村部を中心とした需要の増加**により、消費量の増加が見込まれる。
- ・ 自給率はほぼ100%であるものの、飼養頭数の減少と需要の増加により、**自給率は緩やかに低下**。

⇒ 飼養頭数、生産量が継続して減少する中、消費量が増加している中国は、今まで以上に国際需給を見る上で重要な消費市場になると考えられる。

## メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構では、毎月、畜産、野菜、砂糖及びでん粉に関する情報につきまして、情報誌とホームページによりご提供しています。

これら情報誌の記事と統計データは、当機構のホームページ  
<http://www.alic.go.jp> でもご覧いただけます。

また、各種メールマガジンにより、情報誌の記事の内容や海外情報の新着情報、ALICセミナーの開催などをご案内いたしますので、配信をご希望される方は、当機構ホームページの右の「メールマガジン」のボタンからご登録をお願いいたします。



# ご清聴ありがとうございました。

農畜産業振興機構は、

国産農畜産物の安定供給を図るため、  
生産者の経営安定対策、需給調整・価格安定対策、緊急対策、  
情報収集・提供に関する業務を実施しています。

- ◇ この資料は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
- ◇ この資料の正確性の確認等は、各個人の判断でお願いします。
- ◇ 提供した情報の利用に関して、万一、不利益を被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。